

子どもたち・ボランティアがお客さんにならない活動を

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	東中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ボランティア等研修]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ① 図書室の開館支援・・・図書委員会とボランティアが協働して開館
- ② 1年生フィールドワーク（郷土学習）・・・受け入れと安全見守り
- ③ 特別支援学級の野外活動支援・・・活動場所（彦根プレーパーク）の提供と活動（火起こし、焼き芋、自然体験）支援
- ④ 工藤勇一先生の講演録画を見る会（佐和山小学校2回、地域4回・東中学校4回）ほか

■ 実施に当たっての工夫

これまで、さまざまな学校支援をおこなってきたが、ボランティアが支援に入ると、先生たちは助かって、子どもが、時には先生までもが受け身になってしまうことがあり、中学校を支援することの難しさを感じてきた。そこで、①では、地域協働活動推進員が委員会に出席して、生徒に直接支援が必要かどうかを問うたり、委員長・副委員長には毎月ボランティアの当番表を渡したりするなどし、ボランティア間では、グループLINEを使って情報共有を行った。②③では、協働活動推進員が先生方の会議に出る等、打ち合わせを丁寧におこなった。④では、「当事者意識を育てる」という工藤勇一氏（横浜創英中学高校校長）の講演録画を観る会を数多く設定し、ボランティアや保護者、先生方に、子どもへの声のかけ方、関わり方を共に考えていける機会をつくるようにした。



【 昼休みの図書室開館支援の様子 】

■ 事業の成果

- ① ほぼ毎日昼休みに図書室を開館でき、多くの生徒が利用することができた。図書委員の自覚が促された。
- ②③ 地域協働活動推進員に活動の全体が見えるようになり、適切な支援ができるようになった。
- ④ 「子どもたちに当事者意識を育てる」という目的を意識することで、大人の子どもの声のかけ方、関わり方が少しずつ変わってきた。録画を観る会に参加した人が新たにボランティアに加わるなど、ネットワークが広がった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①は委員会が前期後期制で、担当教員・図書委員が年度途中で変わるため、1年を通した見通しが立ちにくく、コミュニケーションもとりにくい。どの活動においても、同じ活動の支援が毎年続くと、支援があつて当たり前になりがちだが、ノウハウを積み上げながらも、前年の活動にとらわれず、新たに始めるつもりで取り組められると良いと思う。彦根市では、次年度から全小中学校をコミュニティ・スクールにする方向で進んでいる。重要なのは、学校と地域が何を目標にして協働するかであるため、話し合いとともに④のような共通した視点を育む研修の場をつくっていかなければならないと思っている。



【 彦根プレーパークでの野外活動の様子 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員
その他（ 担任・学年主任・担当教員（部活動・委員会・日本語指導）・読書支援員 ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

「城東ちよこっとボランティア」さんとともに創る城東っ子の主体的な学び

彦根市	活動名：東中地域学校協働本部	城東小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：75人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・教員の働き方改革につながる学校支援の在り方について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

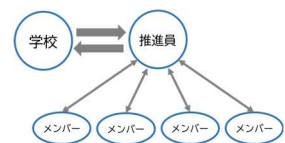
- ・高学年家庭科でのミシンの学習サポート
- ・校外学習（下学年の町探検等）の引率サポート
- ・5年生外来魚釣り引率・活動サポート
- ・4年生「やまのこ」野外活動サポート
- ・3年生ポスター作りについてのゲストティーチャー
- ・特別支援学級校外学習（さつまいも苗植え・いもほり）引率・活動サポート
- ・体力テストでの測定等の補助



【5年家庭科ミシンの学習サポート】

■ 実施に当たっての工夫

・地域学校協働活動推進員が、SNSでボランティア登録をしたメンバーのグループを作り、連絡ツールとして活用した。



■ 事業の成果

- ・3年生町探検など、方面ごとに少人数に分かれて行う活動で、各グループのサポートについていただくなど、子ども一人ひとりの関心に合わせた活動が展開できた。
- ・高学年のミシンの学習サポートでは、1テーブルに1人程度のサポートをしていただくことができた。特に初めてミシンの学習に取り組んだ5年生の児童にとっては、個別に丁寧に支援していただいたおかげで、基礎的・基本的な技能の習得につながった。
- ・特別支援学級の活動では、子ども一人ひとりの特性をよく理解していただき、適切な関わりをしていただいたおかげで、どの子どもが満足感を感じられる活動となった。
- ・SNSを活用することで、学校⇄推進員⇄メンバーの連絡がスムーズに、かつ確実に行えた。学校からのお願いを転送する形で、推進員からメッセージを一斉配信してメンバーを募集するなど、効率よく、また、間違いなく連絡を取り合うことができた。



【3年総合ポスター作りゲストティーチャー】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域・学校ともに無理・無駄のない活動を
 本事業のおかげで、子どもたち個々に応じた豊かな学習活動が展開できている。持続可能な活動にしていくため、今年度のように、無理なく・無駄なく、連絡・準備・実施していくことが重要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

学校と佐和山応援隊の双方向連携で、佐和山っ子の確かな育ちを

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：56人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 ■その他 [長期休業前の印刷物の作成]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

4月、本年度も地域学校協働活動推進員の発信により、支援内容に応じた『佐和山応援隊』を募集していただいた。保護者・地域の方56名の登録で、本年度の地域学校協働本部事業がスタートした。支援事業の内容で、学校担当者と地域コーディネーターでの連絡・学年主任と地域学校協働活動推進員の連絡の区別をし、フリー一部が学校内外の連携を支えるシステムを作った。また、佐和山応援隊に意見や感想を求める双方向の連携関係を大切にしていけることも確認した。このことで、連絡の迅速化や地域コーディネーターの支援の効率化を目指した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

5年生の家庭科学学習“ミシンでソーイング”では、「子どもたち一人ひとりが自分の力でミシンの上糸・下糸の準備ができるようにする」というねらいを説明し、ミシンの上糸・下糸の学習に佐和山応援隊を依頼した。教師一人の一斉授業だけでは、技能の定着に時間を要する学習である。このことで手厚いみとりができ、ほとんどの子どもが一人で上糸・下糸の準備ができるようになった。また、教師と佐和山応援隊が双方向の意見交換を大切にすることで、補充を要する子どもの情報もいただき、ねらい通り「子ども一人一人が自分の力で上糸・下糸の準備ができるようになった。このことでどの子どもも次時の学習へスムーズに進めた。



【5年生家庭科学学習
“ミシン糸の準備”の学習支援】

学習のねらいを明確にしたことで、佐和山応援隊の方にも教師と同様の願いをもっていただき、同じ方向を向いた支援をいただくことができた。双方向の関係を大切にすることで、子どもたちの学習・活動中の情報を教えていただくことができ、子どもたちの学習をより高めることができた。

■ 実施に当たっての工夫

本年度は、5月から「新型コロナウイルスによる感染症」にかかわる諸事が大きく変化した。しかしながらコロナ禍やインフルエンザ感染等、楽観できない状況でもあった。学校で、感染症対策等の計画を立てて用具の事前消毒を心掛けた。また、学習のねらいを明確にすると共に子どもたちの様子や動きをわかりやすくまとめ、事前打ち合わせで学校と佐和山応援隊とが共通理解をした。また佐和山応援隊からも支援をスムーズにするための提案や要望もいただいた。こういった双方向の連携を大切にすることを原則とした。また、事後のお礼のメッセージも行うように共通理解している。

■ 事業の成果

事前打ち合わせを丁寧にすることで、学習のねらいや危険箇所・子どもへの対応の仕方等が佐和山応援隊の方に理解していただけ、ねらいの到達が効果的であった。また、双方向の連携関係を大切にすることやお礼のメッセージ等は、佐和山応援隊の方の活動意欲の向上と学校経営の円滑化を促した。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

支援をしていただくにあたり、細かく配置や役割を決めてしまったため、急な欠席等に対応しにくいことがあった。学校が頼りすぎってしまったことが大きな要因と考えられるが、余裕をもった計画で臨むことの大切さを改めて感じた。

また、現在は、「支援」という形で活動していただいているのが大半である。今後は、人材バンクのようなカテゴリーも作り、子どもたちの指導にも参画していただくことを視野に入れたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 ■その他（教務、学年主任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域と学校のつながりを生かし、学びの活性化を図る

彦根市	活動名 : 東中学校地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：64人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校図書ボランティア「すまいる」の活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」の愛称で活動をしていただいている。今年度も、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、クラス単位での読み聞かせを定期的に行った。子どもたちは、生で伝わる読み聞かせのよさを身をもって感じるようになった。学校図書館の本の整理にもご協力いただき、読書活動の充実の大きな支えとなっていただいている。

○子どもたちの心の活性化を図るゲストティーチャーの招聘

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、従来から行ってきた形態に戻し、多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできている。1年生の「昔の遊び体験」、2年生の「モビリティマネジメント出前授業」、3年生の「地域の歴史探訪」、4年生の「福祉学習」、5年生の「トヨタ出前授業」等を行った。どの学習活動においても、子どもたちは本物を目の当たりにすることにより心の活性化を図り、深まりのある学習を行うことができた。今年度は地域の歴史研究サークルさんが作成された「歴史まち歩きマップ」を寄付いただくなど、昨年度以上につながりを強くもてたことが大きい。地域の歴史を学ぶ上で頼もしい存在として、今後も学習支援をお願いしたい。



【3年生 地域の歴史学習の様子】

○「旭森ボランティア」の活動

今年度も、保護者対象に学校での子どもたちの安全管理と教育活動を支えるため、

①徒競走大会 ②水泳授業の監視・消毒 ③マーチング指導 ④5・6年生の家庭科・裁縫学習 ⑤3年生の地域学習 ⑥音楽集会 ⑦6年生のゲストティーチャー（職業体験談） ⑧就学時健康診断（案内） についてのボランティアの募集を行った。11名の登録があり、すべての項目でお越しいただくことはなかったが、さまざまな教育活動を支えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーに講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。地域学校協働活動推進員の方が事前に学習カリキュラムを想定して今年度の担当教員に助言をしたり、関係機関に対して手紙や電話連絡をしたりしていただくことで連携がよりスムーズに図れたことが大きな成果と感じている。

○保護者の授業・行事への分散参観と学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者にとって、落ち着いた環境での授業や行事の参観を実現するために、地域や学年ごとに割り振った参観を昨年度に引き続き行った。新型コロナウイルスの5類への移行により、各御家庭からの参観人数の制限は行わなかったこともあり、保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真」と「概略の紹介文」の掲載を行い、日々の学校生活について保護者や地域の方が進んで閲覧する機会をもっといただけるよう、定期的な更新を心掛けた。また校務支援システム「teturu」を活用し、学年通信等の積極的な発信に取り組んできた。登録している保護者一人ひとりに多くのアクセスがあり、一定の情報公開を行えている評価も得ている。今後も定期的な発信を行っていきたい。

■ 事業の成果

- 学級単位の交流や分散参観の実施など、よりよい形態での協働の在り方について実践を積むことができた。
- 多忙な中、保護者の温かな支援のありがたさをより強く感じる。「旭森ボランティア」の輪を今後も是非広げていきたい。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校運営協議会を通じて、地域に広く呼びかけ、「旭森ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。
- Teamsなどの活用でリモートを用いてゲストティーチャーや地域の方との連携の場を積極的に探っていく。
- 小さな集団での協働や関わりの在り方のよさを今後も探り、活用していく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 主幹教諭 ）

地域とともに子どもを「たがやす きたえる つなぐ」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 地域と学校（子どもたち）とがつながる活動とその運営について
- ・ 中学生の地域での貢献活動について
- ・ 地域住民への周知について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 学校のグラウンドの花壇の整備を、特別支援学級の生徒と協働して行った。
- ・ 学校が主体となって地域の諸団体の方と生徒代表による「中学生と小学生の地域貢献」に向けての意見交換会を実施した。
- ・ 地域と子どもたちがつながる新しい活動として、夏休みに「ラジオ体操の会」を開催した。またその日に、ウクライナ支援の資源回収を行った。
- ・ 地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問し、全校生徒制作の「クリスマスカード・ニューイヤーカード&ポスター」を生徒と民生委員児童委員さんが協力して届ける取組を生徒会が主体となって行った。また「あさがお」の種を添えて、平和への思いを込めて届けた。
- ・ 地域の方を講師として招き、受験を前にした子どもたちにギター教室を開催した。
- ・ 子どもたちが使うグラウンド周辺の環境整備活動を行った。
- ・ スポーツ振興会、青少年育成協議会と連携し、イベントの役員やボランティアに中学生が参加し活躍できた。



【ラジオ体操の会】



【ギター教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 協働活動推進員と管理職や地域連携担当教員との綿密な打合せを行った。
- ・ それぞれの活動の意味を明確にし、子どもたちに活動の意義を伝えた。

■ 事業の成果

- ・ 地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。
- ・ ラジオ体操の会の取組では、早朝から多くの方が来られ、西中学校区の明るい未来を感じさせる気持ちの良い時間となった。
- ・ クリスマスカードの取組が地域の方に受け入れられ、楽しみにされている高齢者の方も多く、中学生が地域で活動する取り組みとして根付いている。活動後、地域の方から多くのお礼の手紙等をいただき、生徒も温かい気持ちになった。
- ・ ギター教室では、受験を前にしてストレスを感じていた生徒へ、心が安らぐ時間となった。
- ・ 社会福祉協議会をはじめ、地域の諸団体と連携協働をすることにより、生徒の学習を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 地域の諸団体の役員の方々が代わられていることも多く、地域の方への丁寧な説明を行い、つながりを深めていきたい。また、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
- ・ 小学校との連携をさらに進めるとともに、小中9カ年をかけて地域と豊かにつながることでできる核となっていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ これまでの活動の成果と課題を明らかにし今後さらに効果的な活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（生徒会担当教員）

報告書記入者（教頭）

児童の豊かな学びを地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・「進んであいさつをする子どもを育てるために」をテーマに2回熟議の機会を設けた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・4年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行い、地域での取組も教えていただいた。
- ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めることができた。また、直弼公が愛した湖東焼き体験やお茶体験から、調べた内容を実感することができた。

（2）学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：交通安全教室では、近隣交番の警察官だけでなく、子ども安全リーダーや学区の交通安全協会の方に来ていただき、通学路を想定したコース設定等により、交通安全への意識を高めることができた。
- ・5、6年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン系のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

（3）地域とつながる

城西学区社会福祉協議会と連携し、地域のお年寄りに児童全員が手紙を書き、各学年の学習や生活の様子を伝えた。また、環境委員会でも「花いっぱい運動」を連携して行い、児童が地域の一員として活躍の機会となった。



【 4年生 車いす体験 】



【 6年生 湖東焼き体験 】

■ 実施に当たっての工夫

地域学校協働活動推進員にコーディネートしていただきやすいように、担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打合せ時期を調整したりした。

■ 事業の成果

地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学校ブロック内の地域学校協働活動推進員や地域連携担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、当該年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換できるようにしたい。

今年度、学校運営協議会を導入したことにより、地域学校協働活動推進員の役割を明確にすることができたとともに、運営協議会会員の中で地域学校協働活動について理解が深まり、地域ボランティア募集に向けた気運も高まってきた。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/jyosei-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域に学び、人、もの、自然への愛着心を育てる『城北たんけん ～このまち大好き～』

彦根市	活動名： 西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校の応援団として協議会の委員が普段の教育活動も参観する等して児童の様子を見守り、より適切な支援ができる体制づくりに努める。
- ・地域ボランティアの積極的な募集を行う等、人員の確保が必要である。



【3年生 クルーザー体験】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 学びを豊かにする学習支援
- ・地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動の充実を図った。
 ※のぞみ「野菜を育てよう」3年生「クルーザー体験」「市の様子の移り変わり」「ミシガン州立大学連合日本センターってどんなところ？」
 - ・全校児童が参加する「ふるさと探訪オリエンテーリング」を地域の方々との協働による活動として実施することができた。
- (2) 読書環境の整備（読み聞かせ活動・図書室の整備）
- ・毎週1回の読み聞かせ活動や月1回の図書室の整備（時節にあった飾りや本の紹介コーナーを工夫する等）を、地域と学校が連携して進めることができた。
- (3) 学習環境の整備
- ・校地内の樹木の剪定や運動場の整備を協働で行った。



【ふるさと探訪オリエンテーリング】

■ 実施に当たっての工夫

- ・本校の特色ある教育活動である「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、地域の方々の協力を得て、異学年による色別の班に分かれて、安全面に留意して実施することができた。
- ・読み聞かせ活動では、大型テレビに絵本を映し出す等、挿絵の見せ方や読み方を工夫していただき、お話の世界に浸ることができた。

■ 事業の成果

- ・学習過程において、実際に地域の方から話を聞いたり一緒に体験活動を行ったりすることで、児童の興味・関心が高まり、学びを深めることができた。また、地域の人と触れ合うことで、地域で出会った際に挨拶する等、人とのつながりが生まれ、地域への愛着が育ってきている。地域の豊かな人材や教育力に、学校教育が支えられていることを痛感した次第である。
- ・地域の方々が支えてくださる活動について、全校放送などを通じて発信し、感謝の気持ちがもてるように努めている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化、次年度の見通しが十分にもてない状況であることが課題であるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層の連携を図って活動を行っていきたい。また、児童が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会を可能な限り設定し、つながりを絶やさない努力を学校として行っていきたい。
- ・地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子は本校のホームページに掲載している。 <https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/>

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（学級担任）

豊かな子を、育み地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：23人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 本校伝統行事「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本校の伝統行事である「全校ふれあい遠足」において、学校から彦根城までの行程の安全指導のボランティアをしていただいた。地域学校協働本部に登録されているメンバーと保護者にボランティアを募り、合計15名の方にお手伝いをしていただいた。各たてわり班に1～2名のボランティアに付き添っていただいた。交通量の多い交差点や彦根城等の観光客の集まる場所での安全確保をすることができた。

また、児童にとっては、地域の方との交流を深めることができた貴重な機会となり、大変充実した活動となった。



【 全校ふれあい遠足 】

(2) 学習環境の整備（教材園の整備、学校敷地内樹木の整備）

5月と9月に各学年の花壇整備や特別支援学級の畑の土起こしや土づくり、畝づくり、除草作業などをしていただいた。丁寧に環境整備をしていただいたおかげで、理科や生活科、生活単元学習などの取組をスムーズに行うことができた。また、正門前や玄関前の花壇には、その季節に合った植物を植えてくださり、子どもたちの学校生活に季節感や彩を添えてくださった。

(3) 豊かな言語活動の育成を目指した「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語活動の育成のために、朝学習の時間を利用して国語の学習を行っている。その言語学習を補足する形で、各月の第1水曜日を「読み聞かせの日」とし、地域ボランティアの方に学年・学級に応じた内容の読み聞かせをしていただいている。



【 読み聞かせボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・年度当初に地域学校協働活動推進員（コーディネーター）から、「コロナ禍後の学校と地域との連携を大切にしよう」という話をいただき、「全校ふれあい遠足」で一緒に歩いていただいたり、12月には「学校クリーン作戦」で校舎内の清掃活動を児童と一緒にしていただいたりした。コロナ禍では活動に制限があったが、本年度はなるべく児童との交流場面が増えるように意図的に計画を立てた。その結果、数多くのコミュニケーションの機会（会話、遊び）が自然に生まれ、人間関係づくりの場を増やすことができた。

■ 事業の成果

- ・地域の方々とつながることで、登下校時の児童の様子など、学校が把握していない情報を共有する機会が増え、児童理解や生徒指導に生かすことができた。地域で子どもを見守り、育てようとしてくださる存在は、大変ありがたく感じている。
- ・教材園の整備や樹木の整備では、経験や知識が豊富な方がボランティアとして活動してくださっているため、教職員が詳しく知らないことも教えていただき、大変勉強になった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働本部事業登録メンバーの高齢化と固定化が進んでおり、広く地域に本事業についての情報を伝え、新たな人材を発掘していくことが喫緊の課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子を、学校の児童の様子やお知らせとともに、学校ホームページで紹介している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域のでつくる子どもたちの豊かな学習活動

彦根市	活動名 : 中央中学区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 登下校の安全パトロールとあいさつ運動
金城見回り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、あいさつの声掛けやコミュニケーションを取り、子どもたちの安全を見守ってくださっている。
- (2) 体験活動の支援
1年生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」や3年総合的な学習の時間「むかしのくらしを学ぼう」、特別支援学級の生活単元学習「大藪かぶらを収穫しよう」では学習活動のゲストティーチャーをお願いした。また、4年学校行事「やまのこ」や5年家庭科「ミシンになれよう」の学習活動補助をお願いした。
- (3) 読み聞かせ
年間を通じて、朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。
- (4) 花壇づくり
花の苗植えや草むしりなどを委員会の子どもたちと一緒にしていただいた。



【 5年家庭科「ミシンになれよう」 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・今年度、地域学校協働活動推進員さんが交代されたことと、地域連携担当教職員も新任だったため、地域のことをよく知る方に随時相談して進めていった。
- ・地域の支援母体である「すこやか金城の会」が主催となる行事に学校やPTA関係からも積極的に参加した。

■ 事業の成果

- ・通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握し、即時に指導することにつながった。
- ・ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
- ・地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じる事ができた。



【 学校の花壇づくり 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働活動推進員さんが多忙であるために、ボランティアをしてくださる方々となつなごることが難しく、橋渡しを学校が行わなくてはならない。
- ・本事業の取組を、子どもだけでなく、保護者や地域住民に十分に周知していく必要がある。
- ・ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなっている。ボランティア登録数は多いが、実際に動いてもらえる方がそれだけいるわけではなく、実態がつかみにくい現実がある。来年度からは、ボランティアを広く公募し、登録者を整理し直す必要がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当者教職員 ）

彦根南サポートオフィス12年目の取組 ～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：30人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校 地域学校協働活動推進員等
行 政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) グリーンカーテンづくり（6～9月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで8年目。例年、地域ボランティアの方との協働作業を行っている。

今年度は、生徒や教職員の手により支柱立てや植え付け、摘芯や水やりなどをがんばり、グリーンカーテンをつくり上げることができた。

(2) 環境整備作業（今年度は延期により3学期に実施予定）

11月に学校周辺のフェンス際の草刈りや溝掃除を、地域貢献活動として参加の生徒、保護者・地域の方総勢60名程度で行う予定だったが、雨天のため3学期に延期になった。

(3) プランターの花植え

12月に地域学校協働活動推進員の方の指導により、卒業式を見据え、プランターの花植えに取り組んだ。土入れ、苗の植付け、水やりまで、熱心に取り組み、卒業式までは正面玄関で管理をしている。

(4) 図書室環境整備

コロナ禍によりここ数年は活動を見合わせており、今年度も活動は行っていない。しかし、今年度は多くの図書を購入したため、読書活動支援員（週2日来校）と連携を図り、次年度は、古くなった図書の整理を行いたいと考えている。

(5) 地域貢献活動（年間）

例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき地域貢献活動を実施していたが、今年度も学校全体としては活動を見合わせた。しかしながら、コロナ禍後、徐々に地域からの依頼が増え、中学生が地域に出かける機会がもてたため、次年度は、活動の再開を検討している。



【 グリーンカーテンづくり 】



【 プランター花植え 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域と学校が連携した活動を推進するために、地域学校協働活動推進員との連絡をとったり、teturu（保護者連絡ツール）配信等を活用したりしながら人材確保を図った。
- ・地域学校協働活動推進員と担当教員が定期的に連絡をとり、情報交換や運営について話し合った。
- ・地域学校協働活動推進員のスキル向上に向け、研修等を随時紹介し、研修機会の確保を行った。
- ・自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、次年度以降のコミュニティ・スクール化に向け、連携のあり方を再検討していきたい。

■ 事業の成果

- ・毎年行っている環境整備活動等が地域や保護者の方に定着してきている。今年度も、親子での申込みがたいへん多かった。
- ・地域学校協働活動推進員を窓口として、ボランティアの方とつながる機会ができ、地域の方の協力をお願いすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。親子での活動など保護者と生徒が協働する場面を設定していくことも大切と考える。また、大学等と連携・協働も模索しながら事業を推進していきたい。
- ・次年度からの学校のコミュニティ・スクール化に向け、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域とともに特色ある学校づくりを進めたいと考えている。学校運営協議会の会議などを通して、関係機関とも連携を図りながら、地域連携ネットワークの中心として、協議効果と宣言効果を効果的に発揮できるように進めていきたいと考えている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/>

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 教 頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

つながりを生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

年度当初に、計画書を作成し協議することで、いつ頃どのように御協力いただくか熟議することができた。また、その際には、例年御協力いただいているボランティアの方と校区の社会福祉協議会の方との活動が重ならないように気を付けた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・就学児検診の際の運営補助

職員の出張や体調不良により、職員の配置が手薄になることが予想されたので、県立大の看護塾等をお願いしたところ3名の方にお手伝いいただいた。専門的な行事のイメージがありボランティアが集まらない傾向があるので、今後も看護塾と連携をとっていきたい。

・読書ボランティアによる読み語り

朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。コロナ禍は、机の場所で聞くようにしていたが、5類に移行され、ボランティアの方の周囲に児童を集めて読み語りをするようにした。児童との距離が近くなり、挿絵なども見やすく、より本の世界に浸ることができた。また、季節や〇〇週間に合わせた本を選んでいただいたり、図書室に読み語りを使った本のスペースを設け、児童や教師が読み返したりできるようにもしていただいた。

・社会福祉協議会の方々による「校外学習引率ボランティア」

2年生や3年生の生活科や総合的な学習の時間に地域に出かける際、引率のボランティアをしていただいた。見学場所では小グループで活動できるように、たくさんの方に来ていただいた。また、事前に担任と打ち合わせをし、学習のねらいが共有できるようにした。



【 読み語り 】



【 引率ボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

昨年度から校区の社会福祉協議会の方もボランティアをしていただけることになったので、社会福祉協議会の方の強みと長年支えてくださったボランティアの方の強みを考えながら依頼をした。

■ 事業の成果

- ・児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。
- ・今年度も校区内の校外学習の引率にご協力いただき、児童の安全管理においてたいへん助かった。昨年度は、校区の社会福祉協議会の方との連携が初年度で、うまく連携が取れない時もあったが、本年度は、ほぼ計画通り実施することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

長年願っていた「幌踊り体験」であったが、インフルエンザなどの流行により、実施してもらえなかった。教えてくださる方が感染症を心配されていることもあり、来年度は実施時期を検討する必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/jyonan-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 主幹教諭 ）

つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名： 南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：62人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域では縦のつながりが希薄になってきているため、学校で縦割り活動等の充実が図られていることはよい。
- ・コロナの影響で体力も落ち、また、コミュニケーションがとりにくくなっているように思う。体験活動を進めていることはよい。
- ・熱中症が心配であるため、今後各行事の時期についてはよく考えていく必要がある。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○読書活動支援

図書環境ボランティア2名の方が週に1度、図書の整理や修繕だけでなく、行事や季節に合わせた図書室内の飾りなどを工夫し、子どもたちが読書に親しめるように活動してくださっている。朝の活動の時間には、各学級で絵本の読み聞かせをしていただいている。また、「秋のお話会」を学年部ごとに実施し、ひこね市児童図書研究グループの方々に、紙芝居や読み語り等をしていただいた。

○第5・6学年 家庭科「ミシンでソーイング」

5年生は、ミシンを使ってのトートバック製作、6年生はエプロン製作に取り組んでいる。特に5年生は初めてのミシン学習であり、使い方を丁寧に指導する必要がある。ボランティアの方々は、近年、続けて来ていただいております。子どもがどのようなところにつまずきやすいかよく把握されている。操作手順を助言したり、苦戦している児童に声をかけたりして、熱心に支援いただいた。6年生にも同様に支援いただいた。

○第1学年 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」

けん玉、こま、だるま落とし、あやとり、おりがみなどの昔から伝わる遊びを地域の方に教えていただきながらともに遊び、交流した。



【 朝の読み聞かせ 】



【 ミシンボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

コロナ禍もありボランティアバンクの整理が十分でなかったため、次年度以降のために活用状況を一覧表に整理している。

■ 事業の成果

児童は朝の読み聞かせや、毎年実施している「お話会」をととても楽しみにしている。図書室には季節や学習内容に合う本が、見やすくレイアウトされており、読みたい本がすぐ見つかる環境となっている。これらが読書意欲の向上にもつながっている。

また、学習支援は、児童の学びをより充実したものにするだけでなく、教職員数が少ない本校において、教職員の業務軽減にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学区が広く、小学校区全体をまとめる地域の組織がないことから、学校が中心となって活動を進めていく必要がある。今年から始まった学校運営協議会を生かしていけるとよい。
- ・児童だけでなく教職員も他学年の活動を具体的に知る機会があまりなく、また、担当以外が地域の方と深く関わる機会がない。顔合わせ会や感謝を伝える場などをもつなど、教員や児童の思いをつなぐ工夫が必要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・今年度より立ち上げ、地域の方と顔を合わせ話し合う機会が増えたことで願いや思いを共有できた。今後も子どもを中心として話し合い、皆で子どもを皆で守り育てる意識、土壌をはぐくんでいきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

ふるさとを愛しふるさとに学ぶ「We Love かめやま」

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・コミュニティスクールの在り方
- ・学校運営方針についての説明
- ・地域の協力・支援を本校教育にどのように生かしていくとよいか。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 栽培活動支援

1年生から3年生までの児童が、サツマイモの苗を植えて収穫する学習に地域の方がボランティアで指導支援に来てくださっている。土づくりをして、苗の植え方を教えてくださり、収穫時の支援にも来ていただいた。今年度は昨年度と栽培方法を変えて、マルチをせずにやってみようということになった。尋常でない暑さのために、残念ながら昨年度のような収穫は得られなかったが、来ていただいたボランティアの方と栽培方法について考えられたことは、教師にとっても大変よい経験となった。



【1・2・3年生 サツマイモ苗植え】

(2) 3年生 総合「亀山っ子探検隊」

学習を進めるにあたって、地域コーディネーターの協力が欠かせない活動となっている。地域ごとに協力してくださる方が、子どもたちを待ってくださって、その町の祭りや言い伝え、特色を詳しく教えてくださった。子どもたちにとって、地域のことをより詳しく学ぶことができるとともに、地域の方と親しくなる機会にもなっている。



【3年生 亀山っ子探検隊】

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターとは、これまでも学校事情や児童の実態について理解していただき、柔軟に対応してくださってきた。

今年度も同様に、支援していただきたい授業について、地域コーディネーターとの打ち合わせの時間を十分に取り、学習時具体的な支援内容を共有できるようにした。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターに、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。
- ・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかわりを深めることができている。
- ・支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを目指したいところであるが、難しい面もある。
- ・今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各担任）

報告書記入者（教頭）

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：4 人（兼務 2 人） ボランティア登録数：20 人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 緑のカーテンプロジェクト（取組 10 年目）

- ・ 5 月上旬に、支柱設置、ネット張り、ゴーヤの苗植えを、地域ボランティアの指導のもとで実施した。
- ・ 環境委員会や各部活動および地域学校協働活動推進員による水やりを毎日行い、10 月上旬に支柱の撤去を行った。
- ・ 多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

(2) 花いっぱい運動

- ・ 正面玄関に設置する 46 個のプランターの花を 3 の倍数月ごとに植え替えて、常に来客者を花で迎えられるようにした。

(3) 学校行事への支援

- ・ 入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理での保護者とのつながり
- ・ 全校長距離遠足の際の交差点での交通誘導
- ・ 校地内の葉刈り作業や、愛校作業への参加



【 緑のカーテンプロジェクト 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 実施するごとに推進員と担当者で、活動の反省と今後の予定について協議した。
- ・ 推進員と連携して、自治会や各種団体に協力要請をさせていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・ 活動内容を紹介する掲示物を作成して校内に掲示した。
- ・ 生徒の地域貢献活動カードを作成して、参加したことが形に残るようにした。

■ 事業の成果

- ・ 緑のカーテンプロジェクトは取組 10 年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境を自分たちで良くしていく意識づけになった。
- ・ 多くの地域ボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることが実感できた。また、感謝の心を持ち、地域の良さを知る機会となった。
- ・ 学校での活動に地域の方が来てくださることで、地域での活動に生徒が安心して参加するようになった。
- ・ 地域と学校のつながりが発展して、生徒の美術作品を金融機関に飾ったらどうかと地域から声をかけていただき、手配してくださった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。
- ・ 学校が抱える課題の解決につながるような活動ができないか検討していきたい。
- ・ 自治会組織が弱体化して地域での交流が減る中で、地域と生徒のつながりはできつつあるものの、地域の方は保護者にもっと参加してほしいと願っておられる。地域学校協働本部事業への保護者参加が、地域と保護者の橋渡しになるように、保護者への周知に力を入れて、もっと参加していただけるように努めたい。
- ・ 活動に参加したことのない教職員が多いので、今後は教職員にも参加を促して、地域との連携を図り、他の活動へとつなげたい。



【 校内掲示物 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 「チューリップを育てよう」（1年）

生活科の学習の一つとして「チューリップを育てよう」を行っている。身近な自然の様子や四季の変化に気付く学習の一つとして地域の方と一緒に球根を植える活動を行っている。



【2年町探検】

(2) 「町探検」（2年）

普段何気なく見ている街の様子を、町探検を機会により深く詳しく知る学習となっている。2年生では、見学に行く施設の方に実際に話を聞いたりすることで、人々がよりよい地域になるように協力し、努力されていることを知る場となっている。

(3) 「大豆はかせになろう」（3年）

6月末には、地域の方が育てている大豆畑を見学し、実際に種を植えさせていただいた。11月には枝豆収穫を体験させていただいた。また2学期には、大豆からできる醤油の製造過程や教えていただいたり、きな粉を作ったりと地域の方に協力をいただき充実した学習の場となっている。



【3年大豆収穫体験】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域と学校が連携できるように、地域学校協働活動推進員の方を中心に自治会や各種団体と連絡を取り合いながら日程や活動内容を計画し、交流を図ることができた。
- ・各学年、年間計画を見直し、昨年度までの協働活動が教科との関連性があるか、また新たに必要な活動が組めないかカリキュラムマネジメントを行った。

■ 事業の成果

- ・カリキュラムマネジメントを行うことで、教科や学習と関連付けた体験活動を行うことができ、子ども達の学びが高まり、深い学びにつながった。
- ・多くの地域の方に参加していただいたことにより、自分たちの住む地域や学習が、地域の方によって支えられていることを感じることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ここ3～4年、コロナ禍の中での活動として縮小や中止をしてきている。今年度は、少し活動の幅が広がったので、今後もより効果的な活動になるように、実施前の計画と実施後の振り返りを行い、学校にとって地域にとって有意義な取組になるようにしていきたい。
- ・地域学校協働活動推進員、ボランティア共に高齢化が進んでいる。今後も継続して支援活動を組んでいただいたり、新しい支援活動が計画できたりするように、新しい人の人材発掘が重要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子を各クラスの通信や本校ホームページにて紹介している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各学年の担任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域力学校に 学校力を地域力に

彦根市	活動名：彦根中学校区地域域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 「高宮駅コミュニティセンター」での作品展

地域と学校をつなぐ手段の一つとして、今年度も、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」に子どもたちの作品を展示し、学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。

(2) 読み聞かせ活動

毎週火曜日を読み聞かせの日を設定し、地域の方に協力していただき読み聞かせを行っている。

(3) 各学年の学習支援

郷土学習の充実に向けての学習支援を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

【高宮駅コミュニティセンター】

高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」があり、定期的に児童の作品展を開催して、地域と学校を繋ぐ場としてきた。絵画や書き初めなど地域で児童の作品を目にすることがあり、地域と学校が身近な存在であることを認識することができた。



【高宮駅コミュニティセンター】

【高宮っ子たんけんたい】

3年生の総合的な学習の時間では、中山道の現状や歴史について知るだけでなく、ふるさとを大切にしたいという町への愛着を高めることを目標に学習を進めている。この学習では、まず高宮の地域を知ることからスタートする。そこで、地域の方と一緒に地域を見て歩いたり、話を聞いたりしながら学習を進めてきた。また交通量が多く道幅が狭い中山道を歩くので、児童が安全に歩行できるように引率の協力もお願いしている。学習を通して、中山道の街並みや、昔の学校の様子などについて理解を深めることができた。



【高宮っ子たんけんたい】

■ 事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない子どもが増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業を通して、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿を喜んでくださり、好評価である。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちだけではなく、保護者、教職員もコーディネーターとの繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の活動を知らない者も多い。保護者（PTA役員）、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域住民と中学生の交流の場として、地域の行事（文化祭や公民館行事など）への積極的な参加をお願いしたい。
- ・部活動に、地域住民の経験者が指導者になってほしい。
- ・自然に触れる体験を大切に子どもたちの心を育ててほしい。地域の持つ魅力を味わわせてほしい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）男鬼森林学習

学区有林（財産区共有山林）の森林整備作業について学習し、植樹や間伐作業などを実際に体験した。森林の保全と有効な活用との調和について理解することができた。

（2）地域との連携

中学校の前庭の葉狩り、剪定及び、芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいた。

学区の文化祭において、吹奏楽部の演奏及び、書写や美術作品、総合学習新聞等を展示した。さんあかレンジャーも参加した。また、宿場まつりでは、生徒全員で鳥中ソーランを披露した。



【 男鬼森林学習 植樹 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・森林学習では、地域の山林の保全や活用について理解を深めるため、財産区の方を講師に招き事前学習を行う。
- ・学区の文化祭の参加については、打ち合わせを小まめにして、楽器の搬入等が安全に行えるようにした。

■ 事業の成果

- ・地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生（中学校）が互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。



【 学区文化祭 吹奏楽部の演奏 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。また、3年生の卒業研究で「鳥居本の活性化」をテーマにして、鳥居本の自然や宿場町（歴史）、産業について考察をし、未来につなげていく活動ができた。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・1小学校・1中学校で、鳥居本学園として小中一貫型教育を行っている。体育大会や地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（教頭）

「ふるさとと共に生きる喜びを」地域とつながる活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容を中心に記入ください。）
 総合的な学習（ふるさと学習）等地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○ 5・6年生家庭科 ミシンでソーイング

10月に、5・6年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ひとたびミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げることができ、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じとることができた。



【 ミシンでソーイング 】

○ 読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域の方に図書室の環境整備をお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物のデコレーションなどを行っていただいている。また、毎月2回（火曜日8:15~8:30）、約10名の方に学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や発達段階により様々な工夫を凝らしていただいております、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【 図書室環境整備 】

■ 実施に当たっての工夫

参加者の募集については、保護者への紙面での募集に加え、自治会を通して地域の方への配布も行い、幅広く募集をかけた。

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の方と年度当初と年度途中で定期的に相談をし、児童の活動を考慮して見直しをもち活動を実施した。

■ 事業の成果

学校の事情に添った支援をいただき、子ども達が、地域の人・もの・自然に触れながら、活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増え特に中学年や低学年の保護者が高学年の学習に加わって下さり、今後の滑らかな人的な引継ぎにつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイデアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しをより効果的な学習を目指し、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていききたい。

また、地域にある団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、スポーツ振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（学級担任 ）

報告書記入者（教頭 ）

地域の未来につなぐ学校支援

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：5人 ボランティア登録数：85人（稲枝中は8人） <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他〔地域運動部活動事務局〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

教員の働き方改革に伴い、学校に対する支援についてどのようなことが可能かを話し合った。環境整備、学習支援等今まで当協働本部が取り組んできた事柄に加えて、令和3年度から部活動の地域移行についても、中間総括的に熟議を行った。

その中で、次のことが話題となった。

いつまでも善意によって支えられている事業形態が続くのか。ボランティアのメンバーが固定化し、年とともに高齢化が進む。抜本的に見直す時期が来ているのではないだろうか。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・朝の読書活動支援（読み聞かせ）
- ・特別支援学級の作業学習、生活単元学習にかかる支援
- ・校外学習（地域学習）支援、当日の肢体不自由児に対する支援
- ・稲枝駅周辺環境整備、稲枝サマーフェスタへの参加支援
- ・校庭樹木の剪定、除草等環境整備支援



【 地域の方による校外学習の事前指導 】

■ 実施に当たっての工夫

教員の働き方改革が大きな課題となっている時期のため、前年度までに行っていた、勤務時間外の会議をなくした。

コーディネーターが動ける範囲で保幼小中へ出向き、調整を行った。

■ 事業の成果

- ・読み聞かせを行うことで、生徒たちの読書に多様性を持たせることができた。
- ・特別支援学級の学習においては、生徒たちが興味を持ち自主的に作業ができるようになった。
- ・インターネット等では調べ難かった事を地域の専門家の話を聞くことで新しい視点が持てた。
- ・市の予算でしていただけなかった生垣の剪定ができ、近隣から喜ばれた。



【 地域の方から農作業を学ぶ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

この事業が発案された頃（団塊の世代が大量退職したころ）は地域や学校に退職者たちの力やノウハウを生かせないだろうかということが一つのテーマであった。しかし今は、働き手不足のために、高齢になっても仕事に従事する方が増えて、ボランティアを募ること自体が困難な状況になっている。

今のところ、前年度までのボランティアに頼る状況である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

稲枝中学校の学校運営協議会は令和5年度に開設されたばかりということあって、何か協働できているという段階ではないが、運営協議会の会長が、稲枝地区青少年健全育成協議会の会長であることから、地域が望む学校像については明確なビジョンがある。また、協議会は下部組織として稲枝中学校地域運動部活動の事務局を置いているので、過渡期にあると思われる教員への支援や学校づくりへの参画が求められていると考える。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（特別支援学級担任）

報告書記入者（ 地域学校協働推進員 ）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成 20 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：56人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・本校の学校運営方針を基に、読書に親しむ子どもの育成、環境整備や自己肯定感の高まりのために大切なことについて
- ・地域の力をどう子どもたちの教育に生かすのかについて、各支援・関係団体で取り組める活動の交流

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○読書に親しむ子どもを育成する朝の「読み語り」・図書室の環境整備

地域の「読み語りボランティア」8名の皆さんに、木曜日朝のすこやかタイムに読み語りをしていただいた。また、子どもたちがいろいろな本を手に取りやすいように、図書室の環境整備も進めていただくことで、図書室の学習環境が充実し、子どもたちの豊かな心の育成につなげることができた。

○夢を実現された本校卒業生から学ぶ「教育講演会」

本校卒業生でプロバレリーナ・ダンサーとして活躍されている上林さんをお迎えし、4・5・6年生に「夢をかなえて」～届け！先輩からのメッセージ～と題して、体験談や在校生へのメッセージについて講演いただいた。夢を実現させるためには、普段の生活でできることをしっかりとすることや、思いをしっかりと持って決してあきらめないことなどを熱く語っていただき、改めて夢に向かって努力することの大切さを感じる事ができた。



【 朝の「読み語り」 】

■ 実施に当たっての工夫

読み聞かせ時に、実物投影機を活用して本を拡大提示することで、よりお話の世界に浸ることができた。

地域人材を活用した学習や活動について、お世話になった方の所属や名前、活用した教科、内容等を記録に残し、次年度以降に活用できるようにしている。



【「夢をかなえて」
～届け！先輩からのメッセージ～】

■ 事業の成果

「読み語りボランティア」の皆さんは、本校だけでなく校区の幼稚園や中学校にも行ってくださっているので、子どもたちも安心してお話の世界に浸ることができた。

学校運営協議会のメンバーのネットワークを活用することで、学校のニーズに合わせたゲストティーチャーを紹介いただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校として年間を通してどのような取組をしていくのか、またどのような人材を求めているのか、積極的に発信して教育活動を実施していく必要があると考えています。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介しています。

<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 <input checked="" type="checkbox"/>学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/>図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/>学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/>子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/>部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/>学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/>学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/>地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/>地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/>ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/>郷土学習 <input type="checkbox"/>その他 []</p>			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

子どもの活字離れが進んできている。親と子が一緒になって本に親しむ時間を大切にしていきたい。また、コロナ禍にできなかった体験的な活動に積極的に取り組んでいきたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

毎年地域のフラワーサポーターさんと高学年の子どもたちが一緒に花壇づくりに取り組んでいる。メイン花壇だけでなく、サブ花壇や中庭、昇降口など四季折々の花に囲まれている。花の植え替えや水やりなど、地域の方と共に活動に取り組むことができた。花の栽培活動を通して、命の大切さや、思いやりの心を育むことにつながった。木工教室では、昨年度はコロナ感染症対策のため、前半、後半の2グループに分けて実施したが、本年度は4年ぶりに合同開催をした。約100名の親子が鉛筆立てや本棚など、親子で力を合わせて作成することができた。

各学年の学習内容に応じて、地域の方々から話を聞いたり一緒に体験したりする学習活動を行った。低学年では地域の神社や商店に出かけて話を聞いたり、持ってきてくださった焼き芋を給食の時間に食べたりした。中学年では保護者にゲストティーチャーとして来校いただき、木を使ったものづくりについて学習した。高学年では近所の田んぼを使った田植え体験やニゴロブナの放流体験を行った。



【 花の苗植え 】



【 木工教室 】

■ 実施に当たっての工夫

フラワーサポーターさんととの花壇作りでは、地域コーディネーターと事前に年間のおよその活動計画を共有することで、見通しをもって取り組むことができた。また木工教室では、使用する材料を準備する際に、ある程度の大きさごとに分けて用意することで、時間内に効率よく活動することができた。

■ 事業の成果

フラワーサポーターさんと一緒に種まきや植え替えなど花壇作りに取り組むことで、地域や学校での出来事について自然と交流する場面が見られた。また、学校の花壇は地域のみならずとも大切な花壇であるという意識が高まり、今後も大切に続けていきたいという伝統意識の育成にもつながった。地域学習等で話を聞いた際には、実物に触れたり、体験を交えた話を聞いたりすることができた。今と昔を比べることで、町の様子や生活の仕方、暮らしやすさなど時代によって変化してきたものや、何十年も変わらず大切にされてきている場所や思いに気づくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日程調整や前年度の内容確認、学級担任との連絡調整が難しいことがあった。今年度の活動内容、および反省点について現担任でまとめ、来年度の新担任に確実に引き継げるようにしたい。また、地域コーディネーターと年度当初におよその年間の活動内容について共有することで、計画的に活動を進めていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

年間3回の会議を行う。1学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。2学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見を頂いた。3学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。今年度は実際の活動写真や動画などを示しながら説明することで、子どもの様子や活動内容がよく伝わり、より具体的な内容について交流することができた。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（担当教諭）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 20 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：199人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 地域人材の発掘が課題（下校見守りの高齢化など）
- ・ 穏やかな学校生活の中にあっても、人生の荒波を乗り越える力強さを育む教育活動を探る。
- ・ 稲枝3小学校の交流を図るとよい。
- ・ 学校教育目標やビジョンの共有と、「協働」の定義を委員会内で共通理解の必要。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○栽培活動支援

- ・ 年度初めの4・5月に、地域の方にお願ひし、各学年の栽培活動で使用する畑の整備をしていただいた。

○稲村かるたオリエンテーリング

- ・ 10月31日(火)に、全校児童が学校から柳川町、薩摩町方面へ徒歩でオリエンテーリングを行った。チェックポイントでは地域の方にその土地にかかわるエピソードを紹介していただいた。地域の豊かな歴史を感じ取り、ふるさと「いなむら」を誇りに思う気持ちをさらに高めることができた。



【稲村かるたオリエンテーリング】

○交流のつどい

- ・ 11月21日(火)に、地域の方にお世話になり、1・2年生が紙芝居や人形劇、独楽（こま）まわしを楽しませていただいた。珍しい独楽の紹介をしていただいたり、回し方を教えていただいたりした。地域の方の温かさに触れ、楽しく充実したひとときとなった。



【交流のつどい】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 地域連携担当教員を通して、ボランティアの方を探したり日程調整をしたりした。また、窓口を一本化し、先を見通して日程が重ならないように配慮した。
- ・ 年度当初や、それぞれの活動の前には地域コーディネーターに学校にお越しいただき、活動のめあてや安全面の配慮等について打合せを行った。

■ 事業の成果

- ・ 子どもたちの環境整備が整い、安心して学校生活を送ることができた。
- ・ 地域のボランティアの方と関わることで、子どもたちにとって身近な地域の方に教えていただいたり、お話をしていただいたりすることで地域への愛着も深まった。稲枝北小学校の子どもたちのために地域の方々がいろいろと支援をしてくださっていることを、折に触れて紹介したり、事前指導をしたりすることで、ふるさとへの思いを深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの高齢化が進んでいるため、後に続いて指導して下さる方を見つけていく必要がある。新しいボランティアの方の加入を積極的に進め、人材確保にあたっていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会では、建設的なご意見やご提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力により学校を支えていただいている。「地域に開かれた教育活動」の実現に向けて、より一層の地域との連携を深めながら、活動を行っていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他（ ）
報告書記入者（教頭）

「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク8年目の取組

彦根市	活動名： 若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [土曜支援（教室）…第1、3週の土曜日AM]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働本部（わかバンク）の組織について
 ・年間の活動内容について
 ・育成する児童像について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①「若葉の森」の環境整備活動

校地内に植えられている2000本を超える樹木は、「若葉の森」として地域の方にも親しまれている。開校当時からこの「若葉の森」の樹木を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等を中心に樹木に関わる学びを深めている。

常設の支援（図書・学習・見守り・広報・土曜）に加え、特設の環境整備部により校地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等の支援を充実させることができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。

②命を育む栽培活動

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。この活動の目的は、子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切に、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいで進めてきた。今年度も地域学校協働活動推進員との入念な打合せを行い、教育活動の目的に応じた栽培活動（畝立て、苗植え、収穫など）に支援をいただくことができた。

③地域の高校との協働によるプログラミング学習

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り愛校運動の一環として中庭テラスの修繕作業などに取り組んできていた。さらに、電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施してきた。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際にScratchを使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。



【 環境整備部による葉刈り 】



【 プログラミング学習 】

■ 実施に当たっての工夫

○地域学校協働活動推進員と地域連携担当教職員が連携を図り、地域と学校が協働した活動を教育課程に位置付け進めることができた。活動について広く発信できるよう、広報紙を発行したり学校ホームページで紹介したりし啓発を図った。

■ 事業の成果

○地域活動推進員を中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の6つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

○8年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。支援メンバーの高齢化も伴い、今後の継続を可能とする組織改編が急務である。保護者への参画を呼びかけ、地域・保護者で子どもの成長を支える活動の充実を進めていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○年間4回、学校運営協議会を開催。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）